

サモア独立国
職業訓練学校拡充計画
基本設計調査報告書

平成 16 年 4 月

独立行政法人国際協力機構
株式会社 山下設計

無償

JR

04-095

サモア独立国

職業訓練学校拡充計画

基本設計調査報告書

平成 16 年 4 月

独立行政法人国際協力機構

株式会社 山下設計

序 文

日本国政府は、サモア独立国政府の要請に基づき、同国の職業訓練学校拡充計画にかかる基本設計調査を行うことを決定し、独立行政法人国際協力機構がこの調査を実施いたしました。

当機構は、平成15年11月24日から12月22日まで基本設計調査団を現地に派遣しました。

調査団はサモア政府関係者と協議を行うとともに、計画対象地域における現地調査を実施しました。帰国後の国内作業の後、平成16年3月29日から4月7日まで実施された基本設計概要書案の現地説明を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終りに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成16年4月

独立行政法人国際協力機構

理事 松井 靖夫

伝 達 状

今般、サモア独立国における職業訓練学校拡充計画基本設計調査が終了いたしましたので、ここに最終報告書を提出いたします。

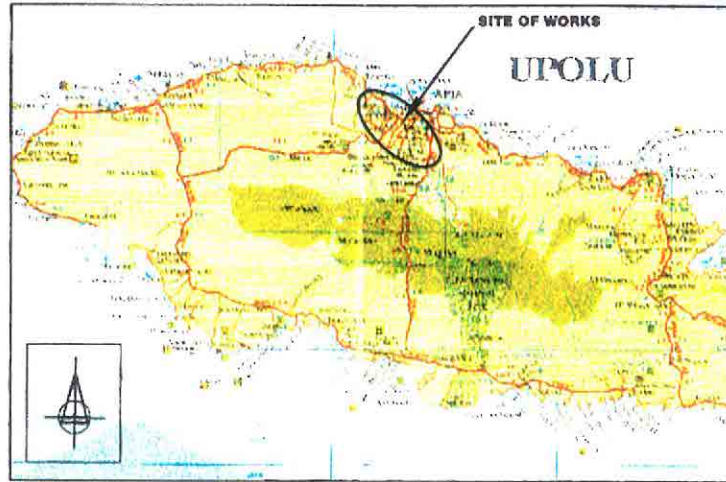
本調査は、貴機構との契約に基づき弊社が、平成15年11月より平成16年5月までの6.5ヶ月にわたり実施いたしてまいりました。今回の調査に際しましては、サモアの現状を十分に踏まえ、本計画の妥当性を検証するとともに、日本の無償資金協力の枠組みに最も適した計画の策定に努めてまいりました。

つきましては、本計画の推進に向けて、本報告書が活用されることを切望いたします。

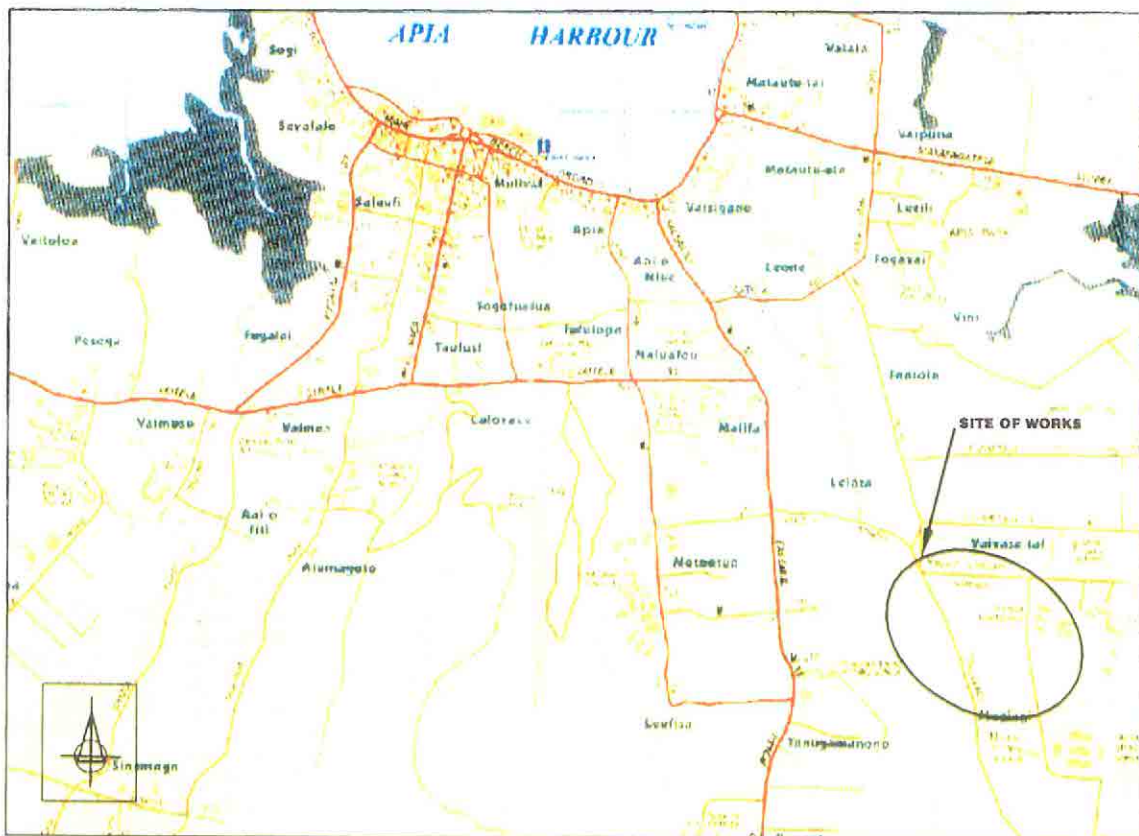
平成16年4月

株式会社 山下設計
サモア独立国
職業訓練学校拡充計画
基本設計調査団
業務主任 田中 実

サモア国位置図 (2)



LARGE SCALE LOCATION PLAN



LOCATION PLAN

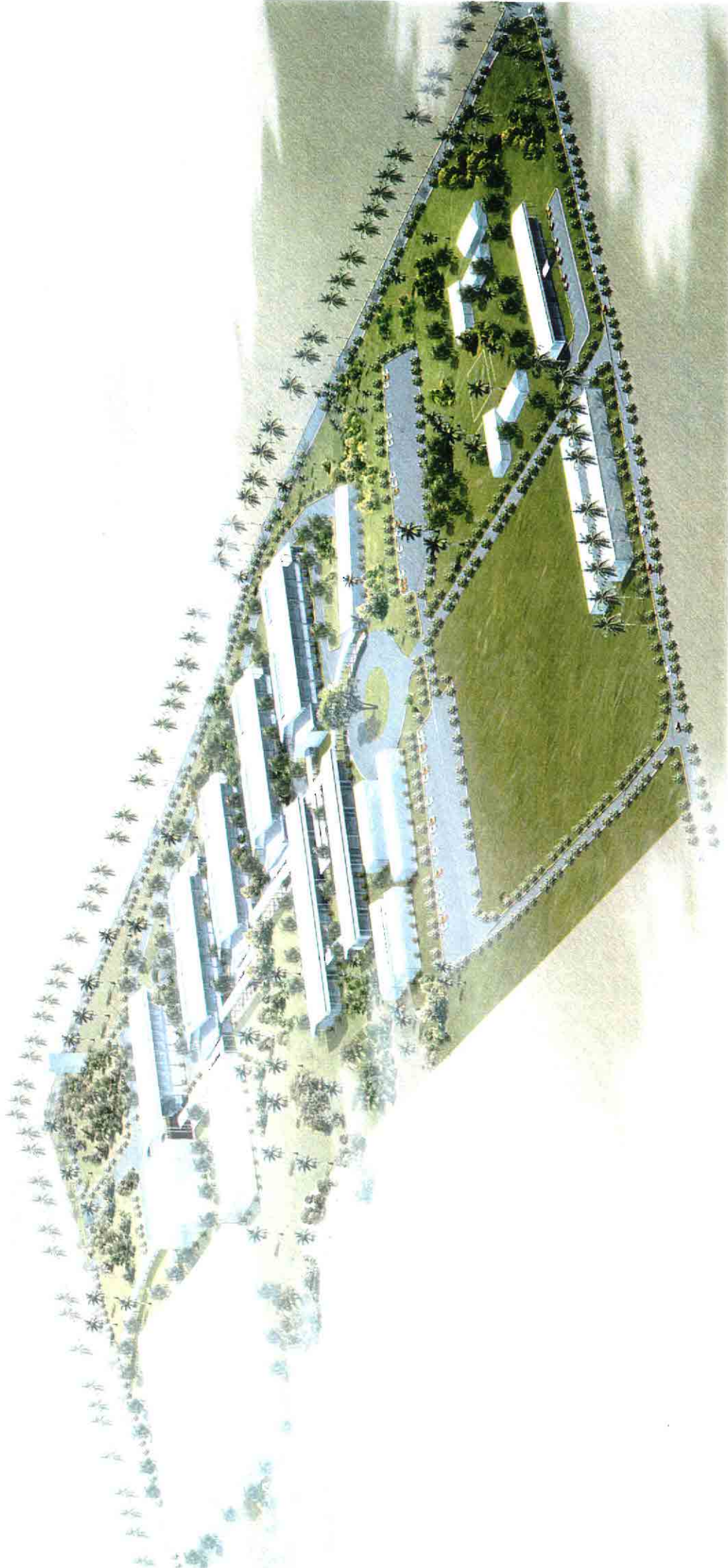
建設予定地



建設予定地より南側 (NUS 方向)



建設予定地より北側 (既存施設方向)



完成予想図

サモアポリテクニクの現状写真 1



プロジェクトサイトはバイパス通りの南側に沿っている。(写真左) SP 正門付近よりアピア市中心方向を見る。



コリン通りに面したプロジェクトサイト(写真右側)。この手前右に NUS の正門がある。



バイパス通りに面した観光・接遇科校舎。住宅を改造したものの為、使い勝手が悪く老朽化も激しい。本プロジェクトでは正門の位置となる。



現在の正門(敷地北東)より既存キャンパスを見る。ラグビー場の向こうに技術学科のワークショップが見える。



本プロジェクトの建設予定地(キャンパス南側)より既存施設を見る。遠くに太平洋を望むことが出来る。

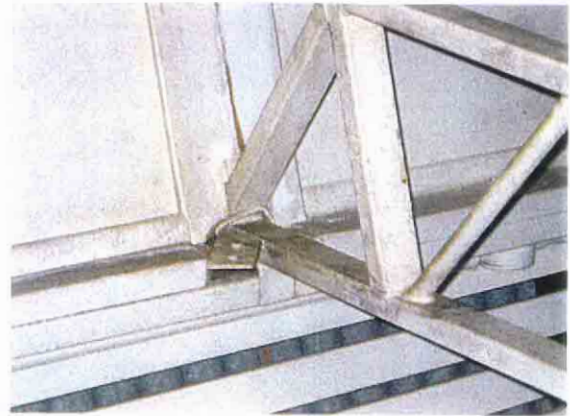


建設予定地より南側をみる。現状では樹木が密生しており風通しは悪い。木立の間から NUS が見える。

サモアポリテクニクの現状写真 2



築 35 年以上の SP 内で最も古い校舎。現在は製図室・コンピューター室・一般教室が入っている。



この校舎は老朽化が激しく、構造的にも危険な状態の為、本プロジェクトでは解体の予定である。



技術学科の教室。既存ワークショップ棟の外側に増築している為十分な換気が確保できず環境が悪く、生徒数に対し手狭である。



この一般教室棟は比較的状态が良好な為、本プロジェクトでは改修して使用する。



木工建具科。集塵機が機能しておらず、非常に劣悪な環境となっている。



配管・板金科。増築による換気の悪化で、内部は非常に蒸し暑い。工具・材料類は手狭ながら整理されている。



溶接・組み立て科。オーストラリアからの援助機材である溶接機が並んでいる。



自動車学科。テスター類や自動車の教材、エンジンカットモデルなど、殆どが日本の援助機材である。



機械加工科。30年以上の旋盤が現在でも使用されている。対応出来るもののメンテナンス状態は良い。



電気学科。生徒の座学スペースが無く手狭である。



冷凍・空調科。手狭な為、空調機や冷蔵庫の解体や修理をおこなう作業スペースが小さい。



ラジオ・電子科。機材は日本の援助などによるものが殆どである。

サモアポリテクニクの現状写真 4



観光・接遇科厨房。よく整理され、清潔が保たれている。



観光・接遇科教室。住宅に付随した倉庫を改装している為、環境が悪く、手狭である。



事務管理部門。住宅を改修したものを使っている為、SP・NUS 合併後の新組織に対応するのは難しい。



図書室。比較的状态が良好な為本プロジェクトでは改修対象とした。



地形調査立会い。プロジェクトサイトは南側から北に向けて緩やかに下る地形で、長手約 400mに対して20mの高低差がある。



地質調査立会い。掘削及び貫入試験を実施し比較的浅い2.0m前後に岩盤を確認した